

ねえひよちゃん



青沼貴子



県立薩南病院の8日の開院を記念しテブカットする関係者＝5日、南さつま市加世田村原4丁目

周産期注力「地域の要に」

新薩南病院 8日開院前に式典

南さつま

南さつま市加世田村原4丁目に新築移転し8日に外来診療を開始する県立薩南病院の開院記念式典が5日同院であった。南さつま、枕崎、南九州の3市を主な診療圏とする中核病院で10診療科を設置。地域の要望

が高かった産婦人科のほか麻酔科を新設。2007年から休診し4月に再開した小児科も本格始動するなど周産期医療の充実を図る。式典には約100人が参加。塩田康一知事は「地域の要として安心して医療を受けられる病院を目指

Q&A

新薩南病院

地上6階建て、延べ床面積約1万5千平方メートル。病床数160。うち新型コロナウイルスを受け入

れる感染症病床4床、結核病床10床。総事業費約100億円。旧病院は1952年、結核治療する県立薩南療養所としてスタート。建物は78年の建設で老朽化が進行、市街地から離れ交通利便性の課題もあった。

ような、住民の信頼と期待に応える病院となるよう祈念する」と述べた。ほかに内科、消化器内科、循環器内科、人工透析内科、外科、消化器外科、放射線科を設置。災害医療や救急医療も担う。スタッフは医師21人、看護師や助産師ら124人で計約300人。産婦人科には陣痛から分

娩、産後の回復を一室で行うLDRを2部屋設ける。医師は現在2人体制で入院病床は14床。1階に外来診療と検査部門を集約、2階に手術室や透析センター、3～5階に各診療科の病室、屋上にヘリポートを設置した。救急や感染症患者向け出入口もある。(犬塚政志)

産婦人科 妊婦ら「安心できる」

南さつま市に8日開院する県立薩南病院は地域に不足する産婦人科を備え、産科のない同市、南九州市に加え、6月末で唯一の個人病院が分娩の取り扱いを停止する枕崎市をカバーする。小児科も再開し、出産前の女性らは「安心できる」と歓迎しつつ、新病院に不安な一面もみられる。

安はある」と漏らす。同市立神北町の白山真純さん(33)は産婦人科で5月中旬に出産する予定。間に合ったというのが正直な気持ち。南さつままで約30分かかる。近くの方が安心」

南さつま市笠沙の遠矢咲奈さん(24)は10月出産予定で1時間以上かけ鹿児島市

「何もかも初めてなので不

は再開した小児科も歓迎。「入院施設があるのは頼もしい。新たに授かったとしても任せられる」と話した。(下栗淳也、犬塚政志)